

競艇界のさらなる発展に向けた改善策に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5009A303—9 江口 晃生

研究指導教員：平田 竹男教授

本論文は、競艇界の現状を分析し、競艇界のさらなる発展の為の改善策に関する考察を行った論文である。

第一章では、研究に至った背景と、研究の目的を述べている。筆者がデビューした1984年は、スタンドを埋める満員のファンの中でレースをし、賞金も上昇し続けていた。しかし近年は、選手賞金総額は良い時と比べて約25%以上も下がり、筆者の地元水面である桐生競艇場の存続閉鎖問題、そして水面から見る空席の多さなどに、筆者は並々ならぬ危機感を抱いてきた。

そこで客観的な事実と、現役選手として長年現場に身を置いてきた現場の目線の両面から、競艇界の課題や問題点を明らかにし、競艇界の発展に貢献したいと考えた。以上の背景を元に、本研究では、競艇界の変遷と現状を整理し、競艇界の抱える問題点を明らかにすると共に、その問題点を解決するための改善策を提言することを研究目的とした。

第二章では、上記の目的を達成するための分析手法を述べた。競艇界の課題を抽出するための分析手法としては、1、「競艇の売上に関する分析」、2、「来場者属性と競技イメージに関する分析」、3、「競艇選手に対するアンケート調査に関する分析」の3つの手法を用いる事とした。競艇の売上に関する分析としては、売上の節目とみられる年度を抽出し、その年の前後で、どのような施策が行われたのかを分析した。ま

た、全国24箇所の競艇場毎の売上推移に関して整理した。次に来場者属性と競技イメージに関する分析として、性別割合の変化、年齢層の変化、来場者の競艇歴の移り変わり、職業別にみた来場者分析、同伴者人数変化などのアンケート結果を整理し、現状の来場者の分析をした。競技イメージに関しては競艇と他公営競技のイメージ比較に関するアンケート調査を整理し比較した。競艇選手に対するアンケート調査に関する分析は、①日程やルール②賞金やセカンドキャリア③競艇の競技イメージ④競艇界の現状や未来に対する意識、の4つに質問項目を分類し、アンケートを実施した。

第三章では、競艇売上の変遷を整理し、売上の分岐点でどのような施策が行われてきたのかを検証したほか、競艇場ごとの売上分析、月別の売上分析など、売上に関連する分析を行った。その結果、トータリゼータシステムの導入やボートピアの拡大など、その時々ニーズに合わせた舟券売り方の制度変更によって売上が変化していることが分かった。また、近年売上が減少する競艇場が多い中、大村競艇場が大きく売上を伸ばしていることが分かった。大村競艇場の売上拡大要因としては、企画レースの積極展開や番組編成の工夫などが挙げられ、その背景には競艇事業部が大村競艇企業局として独立し、プロパー職員の雇用などが行われていたことが明らかになった。

第四章では、競艇場への来場者属性や、

競艇や他公営競技に対するイメージの調査結果を整理した。来場者分析からは、ファン層の高齢化や、10年前と比べて微増しているものの依然として女性比率が低いことが明らかになり、イメージ調査からは「スポーツ」という項目で他公営競技よりも大幅に低い数字を示していること、「おじさん/おやじ」という項目で最も高い数字を示していることが明らかになった。また、中央競馬界とのイメージ比較では「臨場感」、「スポーツとして」という項目で大きく差をつけられているほか、「雰囲気怖い」、「開催場が汚い」「ギャンブルのダークなイメージ」という悪いイメージを、中央競馬よりも強く持たれていることが分かった。

第五章では、競艇選手に対するアンケート調査結果を整理した。ルールに関する質問からは、オーナープロペラ制度を望む声が多いこと、禁煙したいと考えている選手が数多く存在していることや出走控え室の禁煙化を望む声が多いことなどが明らかになった。賞金やセカンドキャリアに関する質問に対する回答からは、選手は引退後の生活に不安を感じているが、ほとんどの選手が引退後に競艇関係の仕事に就きたくないと考えていることも分かった。競艇界の今後に関する質問への回答では、競艇選手を今後も続けたいと希望する選手がほとんどであり、競艇界への危機感を抱いている選手が9割近くいることが明らかになった。第六章では、これまでの研究結果を元に、平田、中村（2006）が提唱するトリプルミッションモデルに競艇界を当てはめ、課題の抽出とそれに対する改善策を考察した。

「市場」では競艇界の売上変遷を分析した結果からの考察として、クレジットカードや電子マネーでの決済導入、今まで以上に簡単にインターネット発売をできるシステム作りなど、時代のニーズに合った売り方の制度変更をするべきであると考察した。また、レース時間やレース数さらには番組編成を戦略的に実施するための、運営側にプロパー職員の育成を考えた仕組み作りをするべきであるという考えに至った。

「普及」においては来場者イメージ調査の結果を分析した結果からの考察として、レース場スタンドの分煙化などの施設の充実や、観るだけでなく実際にボートに乗れるペアボート体験を増加させることが重要だとの考えに至った。

「勝利」においては、選手出走控え室の禁煙、選手宿舍の個室完備などレース場、選手宿舍の環境整備をし、オーナープロペラ制度復活を早期に実施し、選手育成のための指導者システム作りを行うことによる選手セカンドキャリアの充実などにより、競艇というレースの質を向上させることに繋がり、これこそが競艇界の勝利に繋がるのではないかと考察した。

そして以上のトリプルミッションモデル好循環のための施策を行う上での中心となるべき「理念」として、「競艇がスポーツとして認知され、地域の方々に愛される競技となること」という「理念」を、施行者、選手が共有すべきであるという結論に至った。

競艇界のさらなる発展のために、本研究が少しでも貢献できれば幸いである。